

はじめての GPS × 地形データ

ご購入はこちら

佐々木 弘隆



(a) 駅伝でよく見る画

(b) マラソンでよく見る画

図1 上位選手しか映っていない長距離レースの「中継」はこれから時代遅れになると思う



(a) 緊迫の短距離スタート待ち

(b) ペース配分の戦略も大事な中距離

(c) ライン取りも美しい F1

図2 これからはスポーツ/レース中継などにも地図・地形データを取り入れるととても面白くなると思う

今回実験すること

● 実験の背景

レース観戦は楽しいです! でも、陸上トラック競技やモータ・スポーツに比べてマラソンや駅伝みたいな屋外長距離タイプの「中継」がパッとしないのが残念でなりません(テレビ関係者の方ごめんください)。ほとんどの時間は先頭ランナーが走ってる画像だけです。誰が何をやっているのかが分かりません。長距離ならではの面白い要素がたくさんあるのにもったいない。それが制作のきっかけです(図1, 図2)。

● 位置や地形が分かるのはとてもポテンシャルがある

観客が本当に知りたいのは、

- 全選手の位置関係
- 地形やコース

ではありませんか。トップが独走しているとか、入賞圏内グループが混戦しているとか、急こう配が続く苦しい区間でどのようなドラマが起こっているのかとか、状況や戦略を楽しむのがレースの醍醐味でしょう。これまでのテレビでは醍醐味の1/10も伝えられていないのではないかと思います。

このように書くと、オリンピックのマラソンや箱根駅伝など、テレビ局の方にしか関係ないように思うかもしれませんが、中学生や高校生のレースでも同じでしょう。応援する人/される人がいれば、そこにはドラマがあるのです。今回はその手助けができればというのが狙いです。

それ以外にもいろいろな応用が考えられます(後述)。